

令和 5 年 度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立摂陽中学校

令和 6 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

《学校教育目標》

- ・ 学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着をめざす。
 - ・ 自律心を養い規範意識を高め、健康でたくましい生徒を育てる。
 - ・ 自他を思いやる心を育み、自尊感情を高める。
- 「明朗・温雅・自律・友愛」を信条とし、
明るくおおらかで、自らを律し正しく行動できる生徒を育てる

チームで取り組む、誰一人取り残さない学校

地域、保護者等の協力を得ながら様々な体験活動等に積極的に取り組むとともに、安全安心な学校生活をおくれるようきめ細かな指導を進めてきた結果、一定落ち着いて学習できる環境が整いつつある。

学力・体力の向上に向けて、ICT機器の活用、キャリア教育の充実や授業改善に向けた研究、研修等の取り組みを進めているが、生徒アンケートの「宿題や授業の復習など家で学習している」の肯定的な回答割合が低く、学習の定着がなかなか図れていない状況にある。主体的、対話的深い学びにむけて授業改善を進めるとともに、家庭学習用の課題設定の工夫等学習習慣の定着に向けた取り組みを進める必要がある。

生徒・保護者アンケートの肯定的な回答は年々上昇しているが、生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」、「自分にはよいところがあると思う」の肯定的な回答割合が低いので重点的に取り組む。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」の肯定回答を80%以上にする。
- 生徒アンケートの「学校のきまり・規則を守っている」の肯定回答を90%以上にする。
- 生徒アンケートの「自分にはよいところがあると思う」の肯定回答を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 全国学力・学習状況調査の平均正答率を大阪市平均以上とする。
- 生徒アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定回答を80%以上にする。
- 生徒アンケートの「宿題や授業の復習など、家で学習している」の肯定回答を70%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点を市平均以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 生徒アンケートの「ICT機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答を90%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」の肯定回答を80%以上にする。
- 生徒アンケートの「道徳や人権教育を通じて、命を大切に思う心や互いを思いやる心を育てることができている」の肯定回答を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を45%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。

学校の年度目標

- 生徒アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定回答を80%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点を市平均以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校の年度目標

- 学習者用端末の活用を週3日以上実施する。
- 生徒アンケートの「ICT機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答を90%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

生徒アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目は、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合が70.3%となり全市共通目標を上回った。学校の年度目標についてもそれぞれ目標数値を達成できた。

いじめや不登校生徒については、月1回の「いじめ・不登校対策委員会」で不登校生徒の現状について教職員間で情報共有した。また、こども相談センターや区子育て支援室、スクールカウンセラー等と連携を密に、サテライトや大阪市教育支援センターの活用なども進めた。今後も家庭との連携を密にとるとともに、一人一台端末を活用した「いじめアンケート」「相談申告機能」「心の天気」などで生徒の状況把握に努め、早期発見・早期対応にチームで取り組んでいく。

防災の取組については、地震・火災・津波にまつわる訓練を2回行った。さらに、地域・関係機関等と連携し防災訓練を実施した。また、長期休業前には警察と連携した「生活安全教室」「薬物乱用防止教室」を今年度も実施することができた。

キャリア教育では職業体験や職業講話を実施した。特にPTA主催の「生き方学習」では働くことへの意識の向上、将来を考えるきっかけづくりを進めることができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

生徒アンケート「授業はわかりやすい」の肯定回答は85%で学校の年度目標を上回った。

授業においては、スクールアドバイザーによる授業改善の指導と振り返りを定期的に行なった。また、授業や総合の時間等に図書館を積極的に活用し、昼休みや放課後の時間帯に毎日開館した。図書の貸し出しや学習会などを実施することで、読書に親しむ機会を向上させ活字に触れる機会を増やすことができた。

全国学力・学習状況調査やチャレンジテストについては、成果がみられる面もあるが、全体としての数値目標の達成には至らず、学力の二極化が顕著になっている。今後も対策プリントを活用するなど工夫が必要である。

体力面については、体力合計点において男子は大阪市平均、全国平均を上回ることができたが、女子はわずかに下回った。運動の楽しさを味わうことを重点に置いた授業を展開し、運動に苦手意識のある生徒へのアプローチを工夫していく必要がある。

【学びを支える教育環境の充実】

学力向上委員会を中心に、『主体的・対話的で深い学び』に資する活動、「ICT機器の効果的活用」を重点目標に、全教職員の研究授業を実施し、授業改善の取組を進めた。特に「ICT機器の効果的活用」という面では、前年度よりも積極的に活用する教員が増え、生徒アンケートの「パソコンなどの情報機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答の割合が88%と高い数値であった。引き続き、「ICT機器の効果的活用」に取り組んでいく。また今後は、デジタルドリル〈navima〉を補助教材や家庭学習教材として活用し、家庭学習習慣の定着を図っていきたい。

教職員の時間外勤務時間については前年度よりは微増しているが、大阪市立中学校の平均時間よりは下回ることができている。今後も働き方改革を推進していく。

大阪市立摂陽中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」の肯定回答を80%以上にする。</p> <p>○生徒アンケートの「道徳や人権教育を通じて、命を大切に思う心や互いを思いやる心を育てることができている」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>日常の見守り、声掛けを丁寧に行うとともに、教育相談を通して生徒理解を深め、問題の未然防止、早期発見、早期対応に努める。</p> <p>指標 教育相談を年間2回以上、いじめや被害等のアンケートを各学期に実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>規律正しい学校生活を送ることや社会のルールを守る態度の育成を図る。</p> <p>指標 生徒指導研修会を行い指導についての共通理解を図り、組織的に取り組む。また週1回の学年集会等において平素より規範意識を高める取り組みを進める。生徒アンケート「学校のきまり・規則を守っている」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「元気なあいさつ」「きちんとした身だしなみ」を日常的に全教職員で指導する。</p> <p>指標 全教職員で登校指導に取り組む。生徒アンケート「あいさつをしようと心がけている」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>警察等関係機関と連携し、問題行動の未然防止に努める。</p> <p>指標 生活安全教室を全学年夏休み前に実施する。</p>	B

<p>取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校生徒への組織的な取り組み体制を充実し、関係諸機関との連携を密にし、不登校生の減少に努める。</p>	B
<p>指標 週1回の主任会で状況把握、共通理解を図るとともに、月1回の「いじめ不登校対策委員会」を中心に取り組みを進める。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 防災計画を作成し、防災教室や避難訓練を行い、災害に対し適切な対処ができるようにする。</p>	B
<p>指標 地震・津波・火災を想定した避難訓練を年2回以上実施する。 生徒アンケート「地震や火災など防災の学習に取り組んでいる」の肯定回答を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑦【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 施設、設備の整備、緑化に努め安全な環境づくりを進める。</p>	B
<p>指標 学期に1回の破損調査や日々の点検を推進し、校内の施設が整備されている状態を保つ。</p>	
<p>取組内容⑧【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 全生徒で日々の清掃・大清掃を行い、美化活動を推進する。</p>	B
<p>指標 生徒アンケートの「清掃はみんなと協力して学校の美化に努めている」を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑨【基本的な方向2 豊かな心の育成】 「道徳」の年間指導計画に基づき授業の充実を図るとともに、全教育活動に関連付けて取り組む。 式典や学校行事の充実をはかり、取り組みを通して、豊かな人間性と道徳性を高めて自尊感情を向上させる。</p>	B
<p>指標 道徳の研究授業に取り組むとともに、実践データの収集整理に努める。 生徒アンケート「学年行事や学校行事に、積極的に取り組んでいる」の肯定的回答を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑩【基本的な方向2 豊かな心の育成】 社会的・職業的自立に向け、発達段階に応じたキャリア教育に体系的・系統的に取り組む、職業観・勤労観を育成する。</p>	B
<p>指標 職場体験、職業講話、修学旅行、大阪フィールドワークなどの体験学習を実施し、事前・事後学習を含め充実した取り組みとする。 生徒アンケート「進路学習、職場体験学習、キャリア体験学習などで将来の夢や希望について考えることができた」の肯定回答を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑪【基本的な方向2 豊かな心の育成】 進路情報の収集、情報発信、情報共有を進め、進路指導の充実を図る。</p>	B
<p>指標 「進路の手引き」を年間2回発行し、進路説明会を年間2回実施する。</p>	

<p>取組内容⑫【基本的な方向2 豊かな心の育成】 平和教育・障がい者教育・外国人教育・性に関する指導等の取り組みを進め、生徒の人権意識を高める。</p>	B
<p>指標 平和教育、性に関する指導等の講演会をそれぞれ年1回実施する。また、教職員対象の人権教育研修会を年1回行う。</p>	
<p>取組内容⑬【基本的な方向2 豊かな心の育成】 校内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターを中心に全教職員による共通理解のもと、インクルーシブ教育を推進する。</p>	B
<p>指標 拡大特別支援委員会を設定し、「個別の指導計画」の評価、見直し等を進めるとともに支援について検討し、共通理解、実践につなげる。また、基礎的環境整備に努め合理的配慮に基づく授業支援を行うため、年に1回以上教員研修会を設定する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①今年度は教育相談を1回行った。被害調査は各学期の学期初めに実施し、いじめアンケートはそれぞれの学期末に実施した。</p> <p>②4月に生徒指導研修会を行い、生徒指導についての教職員間の共通理解を図り、組織的に取り組み、校則の変更も行った。</p> <p>③毎朝の登校指導を行い、挨拶、身だしなみについて注意喚起を行い、生徒の意識を高めることができた。多くの生徒が正門や校内でも挨拶をしている様子が見受けられ、生徒アンケートの結果は93パーセントであった。</p> <p>④今年度、1学期末と2学期末に全学年を対象に生活安全教室を行った。夏季休業中、冬季休業中ともに大きな事故なく過ごさせることができた。</p> <p>⑤いじめ・不登校に対し、毎月1回いじめ・不登校対策委員会を実施し、生徒の状況に関して共通理解を図り、関係諸機関と連携を取りながら、不登校の改善を行った。</p> <p>⑥予定通りに実施できた。生徒アンケートも肯定回答が82%と目標値に達した。</p> <p>⑦予定通りに実施できた。</p> <p>⑧予定通りに実施できた。生徒アンケートも肯定回答が87%と目標値に達した。</p> <p>⑨道徳に関しては各学年工夫を凝らして履修すべき内容を全項目実施できた。 生徒アンケート「学年行事や学校行事に、積極的に取り組んでいる」に関して肯定的な回答が80%を超え目標を達成した。</p> <p>⑩キャリア教育を体系的・系統的に進めて、生徒の職業観・勤労観を育成するように努めた。</p> <p>⑪「進路の手引き」や「進路説明会」を通じて、進路の情報を保護者に向けてわかりやすく発信できた。</p> <p>⑫平和教育に関しては、7月に難民支援協会の方を招いて難民問題についての講演会を行った。性に関する指導の講演会は、3年生に向けて12月に実施した。また教職員対象の研修会は、11月の平野区人権教育実践交流会で報告したレポートを用い、10月末にプレ発表という形式で開催した。</p> <p>⑬年度はじめに研修会を設定し、生徒の情報共有ができた。2学期は講師の方をお招きして教員研修を行うことができた。個別の指導計画は各学期末に作成し、必要な支援は学年会や職員会議で周知徹底した。</p>	

次年度への改善点

- ①教育相談の機会にかかわらず、生徒の様子を多くの目で注視していく。教育相談の日程については、年間行事の予定に組み込むなどして、日程の調整をしていく。
- ②4月の生徒指導研修会の内容を充実させ、全職員共通の認識のもと連携を取りながら生徒指導に取り組んでいく。職員会議等でも周知徹底していく。次年度は校則の変更の周知徹底を行う。
- ③次年度も登校指導をより多くの教職員で行い、生徒の情報交換を密に行っていく。
- ④次年度も引き続き、警察等関係諸機関と連携を深めながら新たな取り組みを模索していく。
- ⑤次年度も月1度のいじめ・不登校対策委員会の内容を充実させ、外部機関とも連携を取りながら不登校対策に取り組んでいく。
- ⑥数年ぶりに地域との協力のもと実施した。改善点も多く見られた。反省点を踏まえ、実施学年や時期などの大幅な変更が必要。
- ⑦今後も校内設備の適切な管理に努める。
- ⑧教室や廊下など管理者が明らかな設備に関しては備品も含め、管理が行き届いている。しかし管理責任者が曖昧な場所は不十分であった。管理者を割り当てる必要がある。
- ⑨学年によっては、道徳の授業時間確保が厳しいので、すべて実施できるように早めに履修項目が完了できるように調整してもらう。
- ⑩キャリア教育を体系的に進めて、生徒の職業観・勤労観を育成する機会を作る。
- ⑪来年度も「進路の手引き」や「進路説明会」を通じて、進路の情報をわかりやすく発信する。
- ⑫来年度の平和学習の取り組み内容について、講演会を実施するかどうかも含め、内容をよく検討する必要がある。
- ⑬今後も引き続き、支援担当の打ち合わせや学年会・職員会議を通じて支援方法の改善点を協議・周知する。また、支援する上で必要な知識を研修会等で発信していく。

大阪市立摂陽中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を45%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○生徒アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定回答を80%以上にする。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点を市平均以上とする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>習熟度別少人数指導など、個に応じたきめ細かな指導を実施し、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>指標 習熟度別少人数授業に関する生徒アンケートで「授業がわかる」とする旨の回答割合について、実施前後の差を3%にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学習・指導方法の改善を図る。</p> <p>指標 全教員研究授業に取り組み、成果の共有、授業改善を進める。</p> <p>生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>教職員と地域指導員が連携して、放課後等を活用した自主学習会を実施する。</p> <p>指標 放課後の自主学習会に参加する生徒を前年度より増やす。</p>	B

<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 地域・保護者と連携を深め、地域人材の活用を積極的に進める。</p>	B
<p>指標 地域・保護者との協働による土曜授業「生き方学習」を実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 健康診断について共通理解を図り、適切な事後措置をとる。</p>	B
<p>指標 治療勧告や個別相談等により治療率の向上を図る。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】 健康や食に対する興味・関心を高め、正しい知識を身に付けさせる。</p>	B
<p>指標 毎月1回「保健だより」「食育だより」を発行し、健康に関する啓発を行う。</p>	
<p>取組内容⑦【基本的な方向5 健やかな体の育成】 スポーツや運動に親しむ機会を設け、体力運動能力の向上を図る。</p>	B
<p>指標 体育大会はじめ、マラソン大会、球技大会等、体育的行事や部活動の充実を図る。 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点を市平均以上とする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①国語、数学、理科、英語において実施した。 ②全教職員を対象に2学期を相互参観の期間とし、研究授業を行った。 ③学びコラボレーターや学びサポーターによる放課後学習会を毎日実施できた。また、元気アップ地域コーディネーターとも連携することで、学習会の実施回数を増やすことができた。 ④12月の土曜授業で、PTAや地域の方々と連携し、2年生において「生き方学習」を実施することができた。 ⑤学校行事として共通理解をはかり実施にあたっている。また、実施済みの健診については受診勧告書を発行し受診を勧めている。 ⑥季節や現状に則した内容で情報発信をしている。 ⑦体育大会では全学年で入場行進を行い、体育委員会を中心に一人ひとりが一所懸命に取り組んだ。部活動も活発に活動している。3学期にはマラソン大会を実施する。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①引き続き個に応じたきめ細やかな指導の工夫を行っていく。 ②ICT機器を用いた授業にも重点をおき、全教職員研究授業に取り組む。主体的・対話的で深い学び」を組み込んだ授業展開の工夫を普段の授業から活用できるようにしていく。 ③利用者数が増えてきたので、次年度も学びサポーターを確保し、放課後学習会を毎日開催できるようにしたい。テスト前の利用者数は多くなっているが、それ以外の日はまだ利用者数が少ないので次年度は、さらに多くの生徒の参加を促していく必要がある。 ④実施日や実施方法を検討しながら、次年度も引き続き多種多様な職業の講師を招いて「生き方学習」を実施していきたい。 ⑤委員会活動等を活かして受診を呼びかけ、未受診者へ再度治療のお知らせを配付する。 ⑥引き続き現状に適した情報を発信するとともに、掲示物等も利用し健康啓発に努める。 ⑦体育的行事に対しての関心・意欲が高まっている。マラソン大会に向けて、体力運動機能の向上を図りたい。</p>	

大阪市立摂陽中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○学習者用端末の活用を週3日以上実施する。</p> <p>○生徒アンケートの「ICT機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答を90%以上にする。</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>ICT機器の整備を進め、使いやすい環境を整える。</p> <p>ICTを活用した授業に取り組み、基礎・基本の定着、学習意欲の向上を図る。</p> <p>指標 『主体的・協働的学びの授業づくり』『ICT機器を取り入れた授業づくり』を重点目標として、全教職員による研究授業に取り組み。</p> <p>生徒アンケートの「ICT機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>働き方改革を進め、個々の力量が発揮できて、協働してつくる学校をめざす。</p> <p>指標 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>読書タイムの充実を図るとともに図書館の効果的な活用を進める。</p> <p>指標 昨年度の図書館の昼開館の利用人数は、607人で、貸出冊数は327冊であったので、今年度は昨年以上の利用者数と貸出冊数を目指す。</p> <p>放課後には、元気アップさんなどに協力していただいて、学習会をするなどして毎日開館できるようにする。</p> <p>朝に読書活動ができるように各学級に学級文庫を整備し、「平野区読書ノート」を活用するよう図書館だよりを定期的に配布して働きかける。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>家庭や地域、小学校との連携を深める。</p> <p>指標 学校ホームページなどを充実させ、積極的に情報を発信する。また、小中生生活指導連携会議を学期に1回以上実施し、小中での共通した取り組みを進める。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①生徒アンケートの結果、全体で88%、各学年でも8割強、先生たちがICT機器を使い授業を工夫していると回答している。昨年度よりも3%向上していることから、全教職員が授業でICT機器を使用し、生徒に分かりやすいように工夫されていることがうかがえる。
- ②昨年より平均時間外勤務時間が1時間ほど多く、80時間超の教員も複数いるが、全市の平均時間外勤務時間（累計）よりは下回ることができた。また、12月末時点で基準2を満たす教員の割合は77.78%で、昨年の75.68%より2ポイント上回った。
- ③1月の各種委員会時で利用者数は755人で564冊の貸し出しがあった。昨年度の利用者数、貸出冊数を超えることができた。授業で図書室を利用したことや放課後の学習会の際に声掛けをしたことが要因と考えられる。また、「平野区読書ノート」は3名の提出があった。
- ④学校ホームページは今年度総アクセス数が大阪市4位と地域・保護者の学校教育への関心の高さがうかがえる。小中連携会議は学期に1回行えた。また、小中部活動体験のために密に連絡を取り合うことができた。

次年度への改善点

- ①指標に示したように、『ICT機器を取り入れた授業づくり』等を全教職員による研究授業に取り組むよう、今後も呼び掛けていく。
- ②時間外勤務時間80時間超の教員が複数いるので、減らせるよう促していく。
- ③来年度も図書室の活用を委員会活動や図書館だより「らいぶらりー」などを通して呼び掛けていく。
- ④次年度も学校行事等を通して開かれた学校をアピールしていく。また、小中生活指導連携会議を軸に児童・生徒の交流についても実施可能な取り組みを探っていきたい。

令和5年度 学校関係者評価報告書

大阪市立摂陽中学校 学校協議会

1 総括についての評価

学校の評価は概ね妥当である。

コロナ禍で制限がかかっていた取組も徐々に再開の方向に進んでいる。しかしながら、働き方改革の観点から、教職員の日々の業務に加え、行事や取組においても、精選して再開すべきである。修学旅行や職場体験学習など子どもたちが達成感を得られるような取組や、防災訓練など地域と学校が連携した取組は積極的に継続するなど、今後も試行錯誤しながら教育活動に取り組んでいただきたい。

課題となっている学力面では、ICT機器の活用等、授業改善に向けた取組が進められている。学校における学習だけでなく、家庭学習習慣の定着に向け、家庭との連携をより一層図ることが必要である。自己肯定感のさらなる向上を期待したい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」の肯定回答を80%以上にする。
- 生徒アンケートの「道徳や人権教育を通じて、命を大切に思う心や互いを思いやる心を育てることができている」の肯定回答を90%以上にする。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(中学校)

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を45%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。

学校の年度目標

- 生徒アンケートの「授業はわかりやすい」の肯定回答を80%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点を市平均以上とする。

年度目標：【**学びを支える教育環境の充実**】

学校の年度目標

- 学習者用端末の活用を週3日以上実施する。
- 生徒アンケートの「ICT機器を使って、授業を工夫している」の肯定回答を90%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を70%以上にする。

【**安全・安心な教育の推進**】

- ・全市共通目標、学校の年度目標とも目標を上回ることができている。
- ・いじめ、不登校生徒への対応は今後も迅速かつ丁寧に行ってほしい。昨今問題視されているヤングケアラーについても早期発見、早期対応、早期解決を期待する。
- ・防災訓練は、区役所・消防署・地域防災リーダーと連携して実施できている。また学校独自でも、火災訓練、地震・津波訓練を実施できている。
- ・キャリア体験学習として職場体験学習や「生き方学習」では、勤労観を培うべく、個々の生徒の成長を考えながら実施され、PTA、保護者、地域との連携ができている。
- ・図書館活動や放課後学習会など、学校司書・学校元気アップ・学びコラボレーター・学びサポーターの力をお借りして活発化させ、より多くの生徒が自学自習できるよう今後も推進していく必要がある。
- ・スマートフォンの利用について、トラブルでの加害者にも被害者にもならないために、情報モラルに関する家庭内でのルールづくりが望まれる。

【**未来を切り拓く学力・体力の向上**】

- ・全市共通目標、学校の年度目標とも概ね達成することができている。
- ・チャレンジテストの結果を見ると、府平均には及ばないものの上向き傾向である。学力面にまだまだ課題が多く、大阪市英語力調査などの結果も注視していく必要がある。
- ・放課後学習会ではテスト前の参加者がずいぶん増えている。宿題や小テストなど各教科に工夫も見られるが、家庭学習の習慣が定着したとはまだまだ言えない状況である。スマホに充てる時間が長くなりがちだが、その時間を復習等に充てるよう、保護者への協力をもっと働きかける必要がある。
- ・体力面については、男子は大阪市平均を上回ったが、女子は下回る結果であった。「運動が苦手、嫌い」と捉える生徒へのアプローチの仕方を工夫し、運動の楽しさを味わうことを視点とした体育授業の改善が必要である。
- ・生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しい」の項目で、肯定回答の割合が低い。学年に差があるとはいえ、自己肯定感の醸成などが今後の課題である。

【**学びを支える教育環境の充実**】

- ・学校の年度目標を概ね達成することができている。
- ・タブレット端末などICT機器を活用した授業が活発化しており、生徒たちにとって魅力ある授業が展開されていると生徒アンケートの結果から推察できる。一過性にならないよう今後も継続して行ってほしい。
- ・「心の天気」「相談申告機能」「いじめアンケート」など、生徒が自身の状況を発信できる機能がタブレット端末にあると聞いた。積極的に活用して、いじめの早期発見・早期対応・早期解決に取り組んでほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- 先生方と生徒たちとの信頼関係が築けており、それが学校全体の良い雰囲気につながっている。
- 放課後学習会はさらに充実させて、学習習慣が定着する工夫をお願いする。
- 携帯電話、スマホなどのインターネットの活用について、情報モラル教育を引き続き充実させてほしい。
- 道徳教育など、規範意識の向上に努めてほしい。また、授業規律、授業に向かう姿勢、家庭学習については、家庭と十分連携するとともに、啓発に努めてほしい。
- 防災について、中学生が地域に積極的に出ていき、頼られる存在として成長させる取組をお願いする。
- 特別支援教育に関しても、研修などを定期的実施して、子ども理解の取組を継続してほしい。
- 平野区読書ノートの活用など、読書活動を更に充実させてほしい。
- 部活動について、より効率的な指導方法の研究を進め、生徒の主体的活動、先生方の負担軽減を考えつつ、達成感が得られる工夫もお願いする。
- 令和7年3月から始まる校舎建て替え工事により、グラウンドの使用など制限されることが多く発生することと思うが、できる限り生徒の教育活動に支障のないよう工夫して取り組んでほしい。